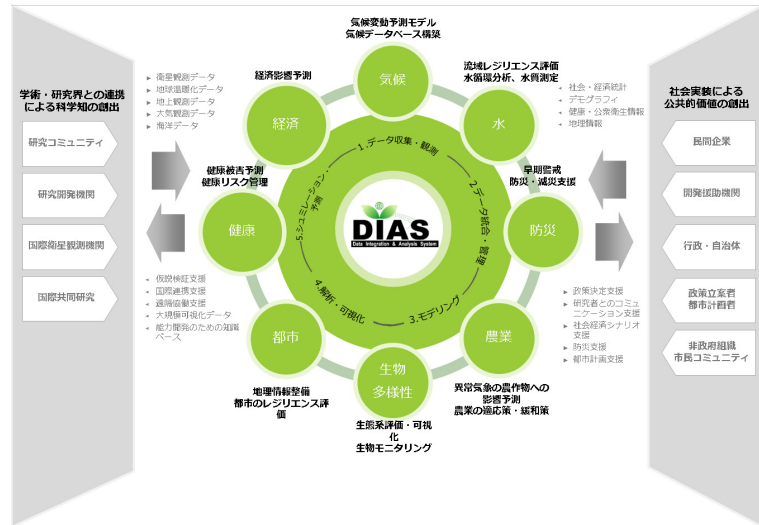


12月までの間、約8万件の利用がありました。(内閣府、国土交通省)

○海洋情報の収集と解析処理のための共通基盤技術の整備・運用を進めるため、地球環境ビッグデータ(観測情報・予測情報等)を蓄積・統合解析し、気候変動等の地球規模課題の解決に資する情報基盤として、「データ統合・解析システム(DIAS)⁴¹」を開発し、企業も含めた国内外の多くのユーザーに長期的・安定的に利用されるための運営体制を整備するとともに、気象・気候、防災等の社会課題解決に資する共通基盤技術の開発を推進しました。(文部科学省)



データ統合・解析システム(DIAS)
提供：地球環境情報プラットフォーム構築推進プログラム

- JAMSTECによる各種データの収集・整備等及び国内外の関係機関との連携については、「第3部5(1)ア」(p.84)に記載しています。
- 水産多面的機能発揮対策事業については、「第3部2(4)オ」(p.63)に記載しています。

(3) 国際連携・国際協力

- 平成31年(2019年)4月から運用開始の「海しる」では、国際社会との連携に活用するため、メニュー及びコンテンツ名を英語化するとともに、英語版の広報用資料を整備しました。(内閣府、国土交通省)
- 海洋データの国際交換促進による海洋の調査研究や利用開発等の発展に向け、将来の海洋データの利用促進及びその管理について、意見交換を行いました。我が国が進めるMDAの能力強化のための国際連携に大きく貢献することが期待されるとともに、「海しる」の掲載情報の充実にも寄与します。(内閣府、外務省、国土交通省)
- 「海洋状況把握(MDA)に関するPT」において、MDAにおける国際連携の強化に向けた検討を行いました。(内閣府)
- MDAに関する国際連携・国際協力に関連して、以下の会議等に参加しました。(内閣府、外務省、国土交通省)
 - ・7月の宇宙に関する包括的日米対話第6回会合において、宇宙システムの利用を通じた海洋状況把握(MDA)の強化に関する協力の機会を引き続き探求していく

⁴¹ 「データ統合・解析システム(DIAS)」 <https://diasjp.net/>

ことを再確認しました。

・令和2年(2020年)2月の第2回海洋状況把握(MDA)の国際連携に関するARFワークショップにおいて、海賊、テロ、違法漁業等の海洋をめぐる課題への対処におけるMDAの活用等について活発な議論が行われ、参加国・機関が、今後、国際的な連携をさらに強化していくことで一致しました。



第2回海洋状況把握(MDA)の国際連携に関するARFワークショップ(於:外務省)
提供:外務省

・第1回日仏包括的海洋対話、第9回日・シンガポール海上安全保障対話、第6回アワオーシャン会合など、様々な国際会議の場において、MDAを含む海洋の安全保障、海洋環境保全等海洋の諸課題について幅広く意見交換を行いました。

○平成27年(2015年)、国・地域・地球規模で政策立案者に活用されることを目的として、国連の下で地球規模の海洋環境の状況を明らかにする「世界海洋評価(WOA)(第1版)」が作成されました。本アセスメントには海洋環境、生態系、食料安全保障、食品安全の分野横断的問題、人間活動と影響、生物多様性等幅広い内容が含まれており、現在、「世界海洋評価(WOA)(第2版)」の作成に向け、海洋科学の専門家として日本から執筆者を派遣し、執筆を推進しています。(文部科学省)

○持続可能な開発目標(SDGs)指標14.3.1(海洋酸性度の平均値)の数値公表に向けた準備にあたり、関連政策部局としてデータ提供部局である気象庁と調整を行っています。(文部科学省)

○シーレーン沿岸国等との間で機材等の供与を通じた支援に関する書簡の交換、海上保安庁モバイルコーポレーションチームの活動及び東南アジア諸国やソマリア周辺国等への海上法執行能力向上のための支援については、「第3部1(2)ア」(p.39)に、同盟国である米国等の連携した各種取組の推進については、「第3部1(2)イ」(p.42)に、ASEAN諸国への能力構築支援等については、「第3部1(2)ウ」(p.42)に記載しています。